

平成30年度 島田市総合計画市民意識調査の結果について（報告）

表題について、以下のとおり調査を実施しましたので、結果について報告します。

1 調査の概要（報告書 p.1）

市民意識を調査し結果の経年変化を分析することにより、施策の評価や総合計画の進捗管理のための基礎資料とすることを目的とする。

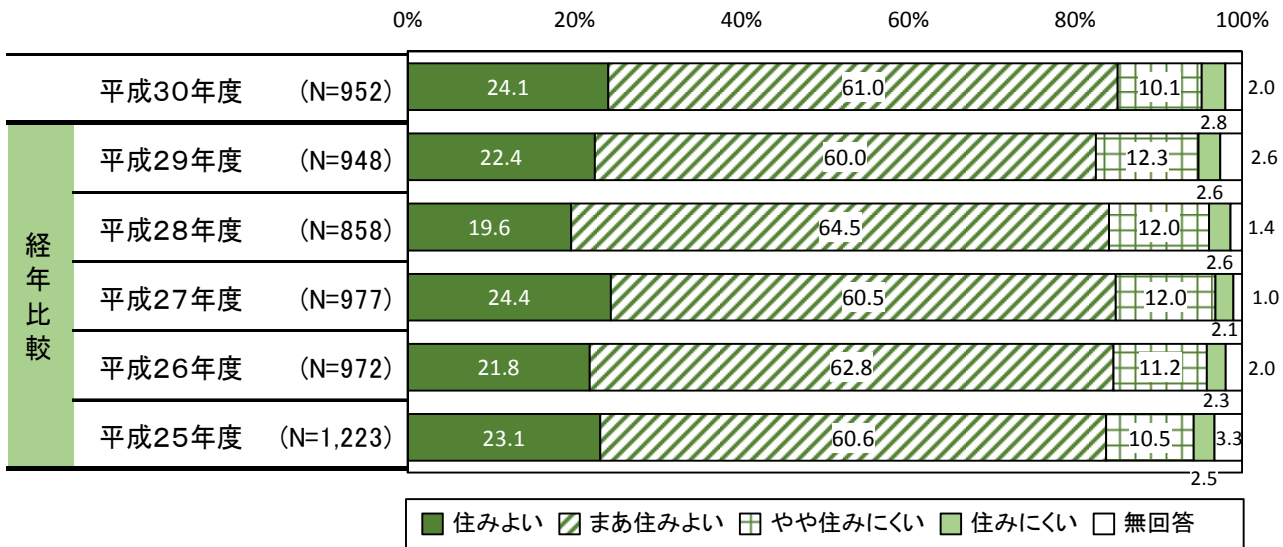
調査対象：市内在住の20歳以上の男女2,500人	実施期間：平成30年6月21日～7月31日
調査方法：郵送調査法	有効回収数：952票（前回948票）
抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出	有効回収率：38.1%（前回37.9%）

2 調査結果（報告書 p.3～）

●島田市での暮らしについて（報告書 p.13～）

島田市の住みごちについて、85.1%の人が『住みよい』と回答しています。

「住みよい」24.1%、「まあ住みよい」61.0%を合わせると85.1%となり、前回調査結果（82.4%）と比較し、2.7ポイント高くなり、平成25年度以降、8割を超える割合を維持しています。

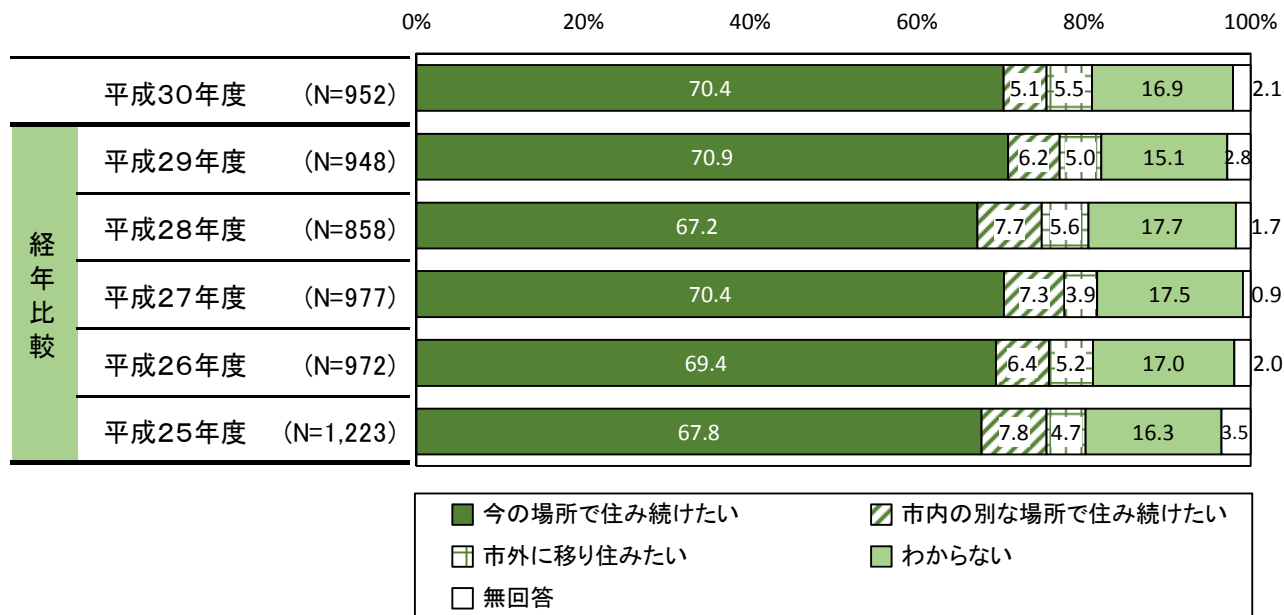


※県内他市調査結果（参考）

- ・藤枝市…『住みやすい』79.1%(H26) 設問「あなたにとって藤枝市は住みやすいですか。」
「たいへん住みやすい」32.4%「やや住みやすい」46.7%
- ・焼津市…『暮らしやすい』62.1%(H29) 設問「焼津市は暮らしやすいところですか。」
「暮らしやすい」27.5%「どちらかといえば暮らしやすい」34.6%
- ・菊川市…『住みやすい』86.1%(H30) 設問「菊川市は住みよいところだと感じますか。」
「住みやすい」26.8%、「どちらかといえば住みやすい」59.3%
- ・掛川市…『住みやすい』75.1%(H30) 設問「あなたにとって掛川市は住みやすいところですか。」
「とても住みやすい」17.1%「どちらかといえば住みやすい」58.0%

島田市への定住意向について、75.5%が『これからも島田市に住み続けたい』と回答しています。

「今の場所で住み続けたい」70.4%、「市内の別な場所で住み続けたい」5.1%を合わせると、75.5%となり、前回調査結果（77.1%）と比較し1.6ポイント低くなりましたが、平成25年度以降、7割を超える割合を維持しています。



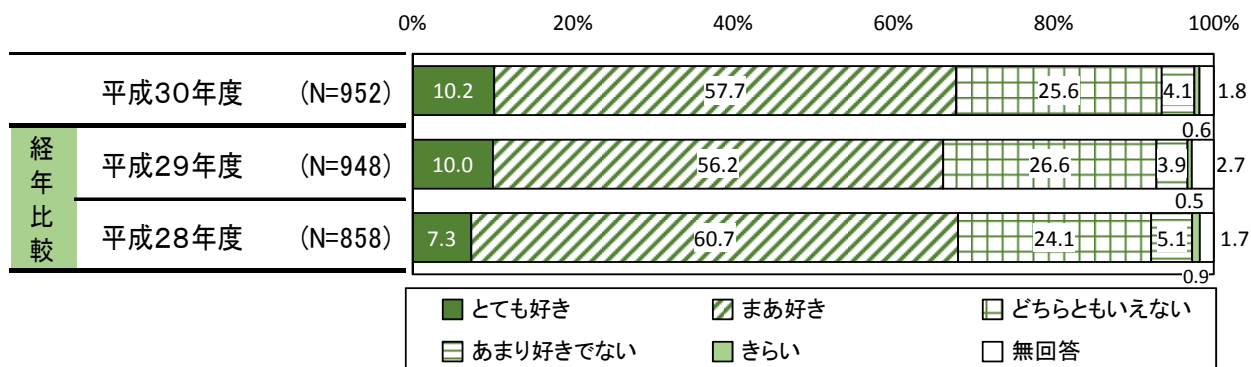
※県内他市調査結果（参考）

- ・ 静岡市…『住み続けたい』：87.6%(H29)
設問「あなたは、これからも静岡市に住み続けたいと思いますか。」
「そう思う」59.6%「ある程度、そう思う」28.0%
- ・ 藤枝市…『住み続けたい』：90.1%(H26)
設問「これからも、現在の場所に住み続けたいと思いますか。」
「住み続けたい」81.3%「できれば転居したい（市内に）」8.8%
- ・ 掛川市…『住み続けたい』：82.7%(H29)
設問「あなたは、今後も掛川市に住みたいと思いますか？」
「今のところにずっと住み続けたい」74.6%「市内の別の場所に移り住みたい」8.1%
- ・ 菊川市…『住み続けたい』：61.1%(H30)
設問「今後も菊川市に住み続けたいと思いますか」

島田市に対する好感度について、67.9%が『島田市のこと好き』と回答しています。

「とても好き」10.2%、「まあ好き」57.7%を合わせると67.9%となり、前回調査結果（66.2%）と比較し1.7ポイント高くなりました。

「とても好き」の割合については、調査を開始した平成28年度以降、増加傾向にあります。



●島田市の取組に対する満足度と重要度について（報告書 p.33～）

満足度（点数）※が高いのは、6年連続で「ごみ・リサイクル対策」（第1位）、「健康の増進」（第2位）、「小・中学校教育の充実」（第3位）です。

重要度（点数）※が高いのは、6年連続で「医療の充実」（第1位）です。

平成30年度順位	満足度（点数）	重要度（点数）
第1位	ごみ・リサイクル対策	医療の充実
第2位	健康の増進（健康診断や予防対策）	地震・水害など災害に強いまちづくり
第3位	小・中学校教育の充実	犯罪防止対策

※満足度（重要度）の回答を点数化（5点、3点、0点、-3点、-5点）し、その平均値を計算した指標です。

平成30年度調査結果において、満足度が低く重要度が高い「重点取組エリア」に属しているのは以下の11項目です。

<p><都市・生活基盤について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（2）生活に密着した道路の整備と維持管理 ・（3）公共交通機関の充実 ・ <u>（10）地震・水害など災害に強いまちづくり</u> 	<p><産業の振興について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（17）雇用の確保・勤労者福祉の充実 ・（18）魅力ある商店街づくりなどの商業振興 ・（19）まちの拠点としての駅周辺整備
<p><健康・福祉・医療について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（23）高齢者も医療・介護・福祉の充実 ・（24）障害者が生活しやすい環境づくり ・（26）医療の充実 ・（27）安心できる消費生活の実現 	<p><市民参加・協働について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（44）市の財政の健全運営

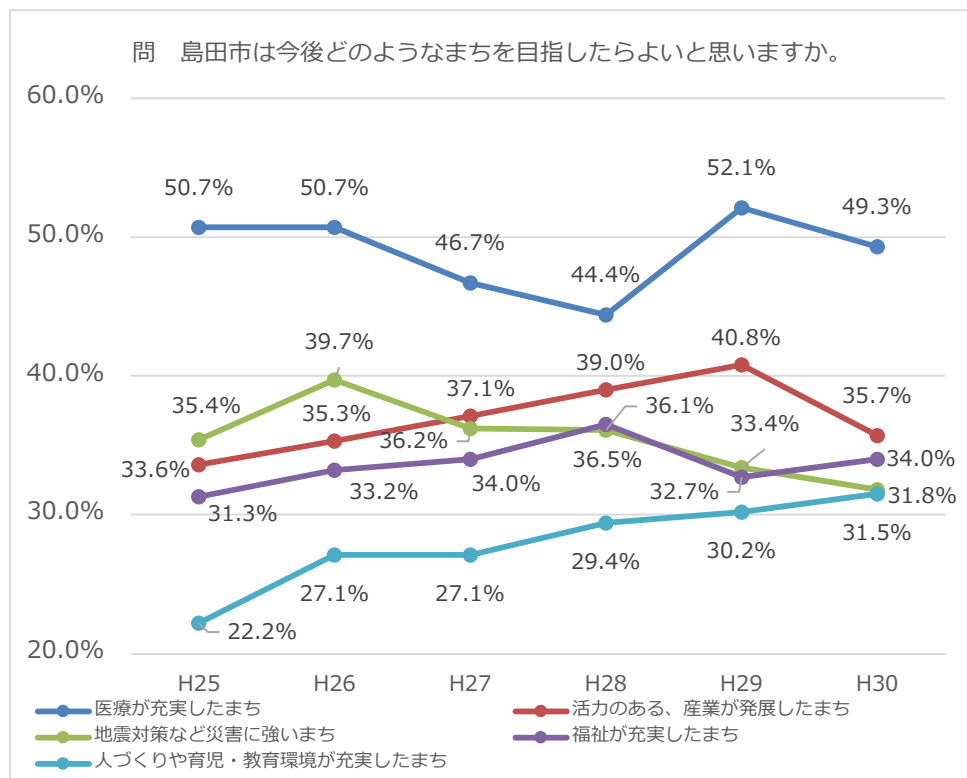
※赤字・下線は、平成30年度新たに「重点取組エリア」に属することとなった取組。

※総合計画後期基本計画に係る評価については、『島田市総合計画後期基本計画最終年度（平成29年度）めざそう値及び市民意識調査の実績値から見る「島田市総合計画後期基本計画の評価について」』に掲載しています。

●今後の市政の取り組みについて（報告書 p.91～）

「島田市は今後どのようなまちを目指したらよいと思いますか。」の問いに対する回答の上位5項目（「医療が充実したまち」、「活力のある、産業が発展したまち」、「福祉が充実したまち」、「地震対策など災害に強いまち」、「人づくりや育児・教育環境が充実したまち」）は、平成26年度から継続して、上位を占めています。

「医療が充実したまち」と回答した割合は49.3%となり6年連続で第1位となっています。なお、第5位の「人づくりや育児・教育環境が充実したまち」（31.5%）は、平成25年度以降6年連続で増加傾向を示しています。



●市民協働の取り組みについて（報告書 p.27）

これからのまちづくりを進めていくうえで、市民が必要だと思う事項は「まちづくりの中心となる担い手、人材」（42.2%）が最も高くなり、過去5年間第1位であった「市民と行政との交流や意見交換する機会」と入れ替わりました。

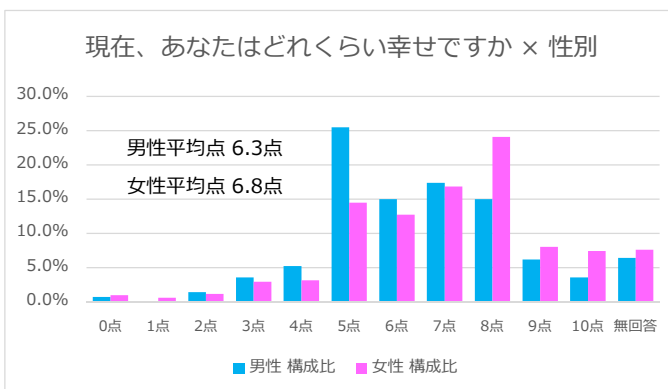
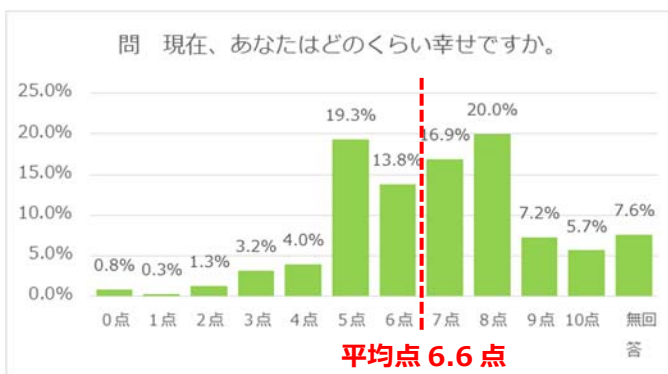
順位	平成30年度	平成29年度	平成28年度
第1位	まちづくりの中心となる担い手、人材 (42.2%)	市民と行政との交流や意見交換する機会 (43.5%)	市民と行政との交流や意見交換する機会 (47.6%)
第2位	市民と行政との交流や意見交換する機会 (38.3%)	まちづくりの中心となる担い手、人材 (39.6%)	まちづくりや計画づくりに市民が参加する機会 (36.2%)
第3位	まちづくりや計画づくりに市民が参加する機会 (33.3%)	まちづくりや計画づくりに市民が参加する機会 (30.0%)	まちづくりの中心となる担い手、人材 (34.1%)

●市民の幸福感について（報告書 p.28）

市民の幸福感を点数化すると、平均6.6点/10点満点（全国平均6.4点）で、過年度と比較し横ばいの結果となりました。なお、回答のばらつき（分散）は、例年並みで、平均点を境に前後の得点、5点、7点、8点に回答がまとまる傾向が継続しています。また、男性の平均点よりも、女性の平均点の方が高い傾向にあります。

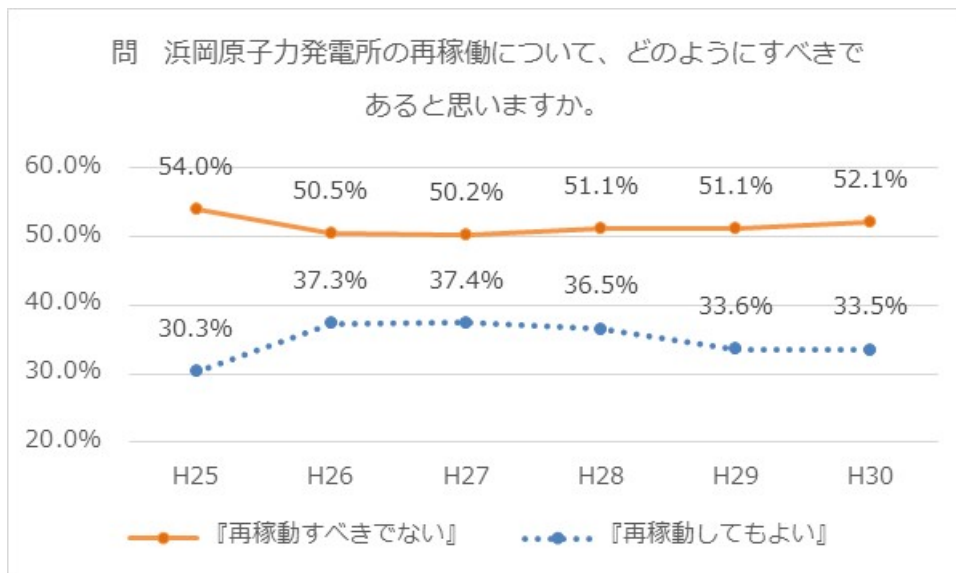
幸せであるために重要な事項については、上位から「健康状況」「家計の状況（所得・消費）」「家族関係」「精神的なゆとり」「友人関係」で、平成25年度調査以降、上位5項目に変化はありません。

		平均点(無回答を除く)
島田市	平成30年度	6.6
	平成29年度	6.6
	平成28年度	6.6
	平成27年度	6.7
	平成26年度	6.6
平成25年度	6.7	
全国	平成26年	6.4



●浜岡原子力発電所について（報告書 p.94～）

『再稼働すべきでない』と回答した割合は52.1%、『再稼働してもよい』と回答した割合は33.5%となりました。平成27年度以降、『再稼働すべきでない』と回答する割合は増加傾向にあり、一方『再稼働してもよい』と回答する人の割合は、減少傾向にあります。



●リニア中央新幹線の建設工事について（報告書 p.96～）

建設工事に伴う大井川の流量減少予測への対策について、『不安を感じている』と回答した割合は58.9%で前年調査結果（51.7%）に比べて7.2ポイント増加しています。一方、『不安を感じない』と回答した割合は16.2%となり、前年調査結果（21.1%）に比べ4.9ポイント減少しています。

